



いわいゆうか  
**岩井悠華さん**

● 野上小6年  
**パティシエ  
を夢見て**

私の将来の夢は、パティシエになることです。そのために、今はさまざまなスイーツのレシピを読んで、そのお菓子を作っています。

高校を卒業したら、製菓の専門学校へ進学して、首席で卒業。その後、海外でパティシエの修業を積み、30歳までに日本に自分のお店をオープンさせます。

おいしいお菓子をたくさん作って、私のお菓子でみんなを笑顔にしたいです。

**みんなの広場に  
出してみませんか？**

「キラリ★話題の人」「すてきな仲間たち」「めおと人生」に登場していただける方を募集しています。自薦・他薦は問いません。  
※「すてきな仲間たち」「めおと人生」は隔月で掲載します

■ 問合せ

政策調整課広報広聴係  
☎(20)3037

**すてき仲間たち**

**佐野市民合唱団 “Voice”**



佐野にベートーヴェンの「第九」を、と歌い続け、佐野市民合唱団“Voice”はおかげさまで今年設立20周年を迎えました。そこで20周年を記念して私たちと一緒に定期演奏会、佐野第九演奏会に参加していただける合唱団団員を新規に募集しています。

また今年には合唱指導・指揮者に小川裕二先生(東京二期会)をお迎えしています。

・第15回定期演奏会は、8月19日(日)午後2時から文化会館大ホールにて。「心の四季」他。

・第20回佐野第九演奏会は、12月24日(月)午後2時から、文化会館大ホールにて。群馬交響楽団と共演できる貴重な機会です。

音楽の好きな方、初心者の方、大歓迎です。ぜひご参加ください。

○連絡先 ☎(22)0273 (猪脇禮子)  
ホームページ <http://sanovoice.com/>  
(活動時間・場所)  
毎週木曜日午後7時～9時・城北地区公民館



**今回の表紙 「満開の桜」(秋山川堀米緑地・昨年の4月12日撮影)**

あなたの好きな花は？、と聞かれると多くの方が「桜」と答えるのではないのでしょうか。市内の各地で桜が咲きつつある頃かと思います。

美しく咲き誇り、新入生など新たな生活の門出を彩ります。満開になるのはまもなくです。

いしかわようすけ  
石川陽亮さん  
(田沼町)



キラリ★  
話題の「ひと」

○プロフィール  
28歳。ピアノを演奏する傍ら、クラシックからポピュラーまでさまざまなジャンルの楽曲のアレンジを行っている。デュオユニット「Ciel(シエル)」を結成し、メディアでも活躍の場を広げている。

音のおもちやを  
作ります！

石川さんがピアノを始めたのは8歳の時。最初は興味本位でピアノを弾いていましたが、自分の周りでピアノを弾くのは女の子ばかり。石川さんの心にいつしか「ピアノの女の子」のイメージができ、だんだん恥ずかしいという気持ちが芽生え始めていきました。そんな気持ちを変え、キツカケになったのが12歳の時、佐野市でも活躍の場を広げているジャズピアニスト原正夫氏との出会いでした。曲目を自由自在に即興で演奏する原氏のピアノスタイルに心を惹かれ、本格的に音楽の道へ進み始めました。

高校時代に意気投合した浅沼杏花さんと2005年にデュオユニット「Ciel(シエル)」を結成。「Ciel」はフランス語で「空」を意味し、さまざまな変化をする空模様になちなみ、自分たちも変化に富んだ音楽を伝えていきたいという想いが込められています。

石川さんは、幅広いジャンルの音楽にエンターテイメントをミックスさせたテーマパークのアトラクションを想わせる演出を手がけることで、家族連れやお年寄りにも人気を博しています。現在はレストランや



▲ライブで演奏する石川さん

シヨッピングモールなど、年間300ステージの公演を行っています。6月には普段のステージをさらにパワーアップさせた、Cielの年に一度の大イベント「Cielコンサート」が開催されます。「Ciel」での石川さんの活躍もこれから目が離せません。

最後に、石川さんは今までの音楽活動を振り返り、後悔がないと話します。「演奏活動から見つかる自分への反省点は、自分を成長させる材料でもありません。その材料を調理し吸収し続けることが楽しさの秘訣となっています。自分の演奏を聴いてくれる方が、笑顔、そして幸せな気持ちになっていただけると、聴くだけでなく魅せるステージパフォーマンスを日々追求していきます」  
(市民記者 飯田 瞬)

市長からの  
メッセージ



春を告げる桜の便りがあちこちから届いています。先月の市議会において、平成24年度予算を承認いただきました。一般会計予算43.2億3千万円のほか、各特別会計・公営企業会計など、総合計画の中期基本計画と平成24年度行政経営方針に沿った予算編成としました。

今年度の特徴は、「東日本大震災の教訓を生かした防災対策」と「北関東随一の高速交通の立地条件を活かした産業基盤整備」を2本柱としたことです。防災面では災害拠点としての新庁舎建設、小中学校の耐震補強などに力を入れ、産業面では、佐野内陸コンテナターミナル構想と佐野田沼インター産業団地の造成による企業誘致を行うとともに、観光振興による地域経済の活性化を図ります。

特に、佐野内陸コンテナターミナル構想については、私の一期目のマニフェストに「夢」として掲げ、粘り強く取り組んできました。この度、2年間の研究成果として「佐野インターランドポート構想書」ができたことで、夢の実現に向けてその一歩を踏み出したと実感しています。

「インターランドポート」とは、簡単に言いますと、従来、港で行う荷物の集配や仕分けなどといった業務を、内陸で行う施設のことです。港を内陸に移すというこの構想の実現は、国の港湾物流の効率化に大きく寄与するとともに、地域経済の活性化にも必ず役立つものと考えています。

今後、市民の皆様「インターランドポート」の実現に向けた取り組みのご報告をさせていただきながら、本市の発展のために推進してまいります。

岡部正英